

今月のことば

世界がぜんたい
幸福に
ならないうちは
個人の幸福は
あり得ない

(宮澤賢治)

龍谷大学非常勤講師

小池 秀章
こいけ ひであき

「人は皆、しあわせを求めて生きている」ということが、よく言われます。このことについて異論はありませんが、もう少し厳密に言うくと、

「人は皆、『自分のしあわせ』を求めて生きている」となるのではないのでしょうか。もしかしらたら、皆ではないの

かもしれないが、ほとんどの人は、他人のしあわせより、まず自分のしあわせを第一に考えて、生きているのではないかと思

います。

「雨ニモマケズ」で有名な詩人・童話作家の宮澤賢治は、

「世界がぜんたい 幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。私は、私以外のすべての人と繋が

り合い、支え合って存在しており、私と他の人は切り離せない存在です。ですから、他の人がしあわせにならないかぎり、私のしあわせは、ないはずなのです。これが、本当のしあわせのあるべき姿なのです。

ところが、私がそのようなしあわせを求めているかといえば、正直言って、どこまでも他人のしあわせより、自分のしあわせが大事なのです。ただ、「世界中の人々が、しあわせになってほしい」という思いが、私の中に全く無いわけはありません。しかし、その思いが本当かと問われると、「嘘ではないけれど本当でもない」としか言えません。

「世界がぜんたい 幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」という言葉を、私が言えば嘘になるけど、仏さまの言葉として、受け止めさせていただきたいと思っています。

合掌